

▼別ショットの写真



今月の表紙は、中央小の三河万歳クラブです。昨年で創設30周年を迎えた歴史あるクラブで、愛知県から長年に渡る活動を評価され、「教育文化奨励賞」を受賞しました。しだれ桜まつりや町内の福祉施設などで見事な舞を披露しています。13ページでも30周年記念式典の様子を紹介しています。

今月の表紙

みんなの広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)
FAX63-5139

行って! 見て! 納得! こうたの歴史

よこすかかいどう はまかいどう 横須賀街道・浜街道

街道シリーズ2回目は平坂街道から分岐する横須賀街道と浜街道を紹介しします。横須賀街道は吉良街道ともいい、平坂街道の脇道として、深溝市場を起点に旧吉良町の横須賀まで続く街道になります。現在でも深溝一ノ瀬や逆川の集落内を通る中心道として、生活に必要不可欠な道となっています。この街道ですが戦国時代には徳川家康が、吉良地方の支配のために何度も通ったようで、徳川家康の三河支配の上で、非常に重要な道であったことがわかります。現在でも道沿いには石の道標が残っており、街道の歴史を今に伝えています。

浜街道も平坂街道の脇道であり、深溝舟山を起点に岡崎市中島まで続く街道になります。

二股に分かれる上六栗金ヶ崎交差点の左手が平坂街道、右手が浜街道に相当します。浜街道は六栗

や野場の中心道であり、三河一向一揆に関連する深溝松平家と夏目吉信による六栗砦の戦いや野場砦の戦いなどが行われたといわれています。この道は徳川家康による三河支配の過程で重要な出来事が起こった道であり、三河の歴史に欠かすことのできない街道といえます。



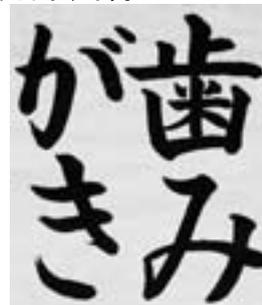
【参考資料：地域史深溝、六栗郷土誌】

問合せ 生涯学習課生涯学習G (内線197)

[訂正]11月号左4行目須美→桐山

みんなの作品展!

平成25年度 健康のまち推進 小中学生作品展からのセレクトです。



岩瀬 史沙 さん



神 柚名 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入の上、企画政策課広報広聴Gまでお送りください。(デジカメ写真の場合はメールで)

「しーれ」

「あけまして おめでとう ございませう」
「ちゃんご挨拶ができた孫娘に、感心顔の親戚のおばちゃん……」

「あんたんとこ、しーれがいーだねー」

「おたくは、しっつけがよくできているのねえ」という意味です。

この「しーれ」とは、動詞「仕入れる」の連用形が名詞となった「仕入れ」のことです。「仕入れ」というと、すべに、商品や原材料を仕入れることが頭に浮かびますが、もともと、「仕込み」と同じく、あらかじめ準備しておく意味だったようで、これが「しっつけ」の意味にもなったのです。

一方、「しっつけ」は、「躾」と書きますが、これは、美しい礼儀作法を身に付けることから作られた国字で、本来は、動詞「仕付ける」の連用形が名詞となった「仕付け」で、慣れること、習慣付けることを意味しました。この「しっつけ」には、習慣性を意味する仏教語「習気(しっつけ)」が変化して広まり、「仕付け」と混同されたものだという説もありますが、これでは、「仕入れ」や「仕込み」との関係が説明できませんよね。

(文・こたけ)



青春
トークリレー
第250走者

かなだ あやか
金田 文香 さん

横落区在住 22歳

私の趣味のひとつである俳句は、この幸田町に住んでいたからこそ出会えたものです。俳句が盛んな幸田高校の文芸部に入ってから、寝るのも惜しんで没頭しました。

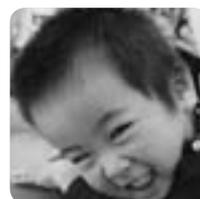
今でもたまに作品をコンクールに応募することがあります。たとえ入選できなくても、ほかの応募作品や選考会の記録を読むと、また別の視点があったことに気がつきます。この“気づき”は自己満足なのですが、同時に一番の魅力でもあります。それまで知らなかった新しい何かに触れられたことが実感されるからです。

高校時代の俳句ファイルの中には、ほぼ全て恥ずかしいくらいに駄作です。でも、今作っているものもそのうち恥ずかしく思えたらおもしろいなと思います。



はろー
キッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



お正月の伝承遊びの一つに、こま回しがあります。深溝保育園では今、このこま回しの魅力に引き込まれている子が大勢います。きっかけは、11月6日に「こまのたけちゃん」が保育園にやってきたことでした。この日、たけちゃんから全員に「ひもごま」のプ



レセントがありました。普段から、こまでよく遊んでいた子たちが喜んだのはもちろん、これまで興味のなかった子たちも自ら挑戦するようになりました。こまの魅力は、たくさんありますが、やはり初めて回った時の感動が1番でしょう。自分で感覚をつかみ、成功した時の充実感、特別なものがあります。そして、その感動を一度味わうと、誰もが、もう一度やってみたくなるようです。さらに、子どもたちが、たけちゃんから教えてもらった「線香花火」「手乗せ」などの技や、自分たちで思いついた「左手回し」の技な

どに挑戦している姿を見てみると、頼もしさやこま回しの奥深さを感じます。12月の発表会では、劇の中でこま回しを披露しました。たくさんのお客さんに拍手をもらった時の誇らしげな表情がとっても輝いていました。子どもも大人も一緒に楽しさやすばらしさを共有できるのも、こま回しの魅力の一つですね。

魅力がいっぱい
こま回し

わんぱくぐらふり
「某月某日」
深溝保育園



ちびと
編集者の
わんぱくぐらふり

▼新年あけましておめでとうございます。皆さん、年が明けてしまいましたよ。昨年は本当にあつという間だったなあという印象です。それでも先日、1年間に撮影した写真を一通り見直しながら、本当にたくさんの人に出会って、すてきな笑顔をたくさん見せていたなあと思いに浸りつつ、自分で小田和正さんの歌を「らーらーら」とちょっと口ずさんでいたら、泣きそうでしたけどね！

昨年は4つの流行語が話題になりました。「今でしょ」「倍返しだ！」は確かに僕もよく使っていました。が、「じゃえじゃえ」は生で使っている人を未だに見たことがないですけどね！活字ではたくさん見た気はしますが、あとは「お・も・て・な・し」。この時期僕の懐を締め付けるのは「お・と・し・だ・ま」。甥っ子姪っ子たちにお年玉をあげるときにあのジエスチャーでお年玉ってやられたら倍あげちゃいますけどね。笑

正月は親戚や普段休みが合わない友人とも久々に再会ができる大好きな季節です。さあ、新年の抱負を決めましょうかね！今年、うま年だけに、「昨年以上に元気に頑張ろうってシマウ。マ(字余り)」

あんなに言葉にできないと言っていた小田和正さんにさえも「おい！」とツッコまれるでしょうね。新年早々、こんな編集者＆広報こうたを今年もよろしく願います。

「山田君、座布団はいらないから、毛布持ってきて。笑(一丁)」